＜京都産業学センター・共同研究プロジェクト紹介＞

京都の流通産業研究

龍谷大学経営学部教授
山西　万三

2015年度の共同研究プロジェクト「京都の流通産業研究」では、京都の伝統産業、西陣織と友禅染にターゲットを絞り込み、伝統の中から革新を生みだす経営者として注目されている株式会社　千總の仲田保司社長と、株式会社　細尾の細尾真生社長からご講演を頂き学ばせていただく機会を持ちました。

2015年4月28日には、「老舗　千總　460年持続経営の秘密とは」という演題で、千總の仲田保司社長からご講演を頂きました。

千總は、現在友禅染の老舗として知られていますが、江戸時代は公家や門跡家の装束を手掛け、明治時代には日本画家に友禅の下絵を依頼するなど、染織を通じて京都の文化を支えてきた歴史ある企業です。2015年は、琳派400年記念の取り組みが京都各所で開催されましたが、京都博物館での千總展なども見どころでした。

ご講演では、高級手描き友禅の着物や、第二次世界大戦中の奢侈品製造禁止令時代に友禅の技術を絶やすまいとして私財をはたいてつくらせた裾模様の作品などを展示頂きました。千總460年の持続経営の秘密について熱弁をふるっていただいた仲田社長の講演に参加者一同聞き入っていました。

2015年6月30日には、日本の伝統産業、西陣織をグローバルな革新産業に飛躍させようとしている株式会社　細尾の細尾真生社長より、“More than textile―西陣織の未来”という演題で講演を頂きました。

細尾では、従来の広幅織物よりも幅の広い織物が織れるように西陣織の織機を改造して、ホテルのインテリアや壁紙に採用される西陣織を開発、世界の超富裕層から注目されています。西陣の細尾の工房も見学させて頂きましたが、名前を聞けば驚くような国際的な著名人もお忍びで来られているということです。

織物を越えていく西陣織の未来について、製品、流通、消費にわたって

語って頂いた細尾社長は、伝統産業は先端産業、絹の可能性は大きく広がっているとしてバイオ絹糸の研究も必要と述べられたのが印象的でした。

龍谷大学・京都産業学センターには、京都商工会議所から寄贈された戦前から戦後にかけての貴重な産業関係書籍があります。満州統治時代の資料が約2000冊、繊維、染織関係の文献が約400冊あります。経済学部の佐々木淳先生、北野裕子先生のご協力によりこの文献目録作成も進めています。

2016年度も引き続き、当プロジェクト研究では西陣・友禅を中心に京都の繊維産業の流通面の研究を促進していく予定です。皆様方のご支援をお願いします。